

JACLaP WIRE No.78 (2005年1月11日発行)

本メールは日本臨床検査専門医会の電子メール新聞 JACLaP WIRE No.78 です。

===== 目次 =====

- 【お知らせ-1】会員動向(2004年12月31日現在数674名, 専門医490名)
- 【お知らせ-2】日本臨床検査専門医会の事務局の移動とメールアドレスについて
- 【WHOトピックス】
- 【1】フィリピンの水害で360万人が伝染性病の恐れ
 <Press December 2004 WHO-180>
- 【MTJ(The Medical & Test Journal)12月1日号から】
- 【MTJ(The Medical & Test Journal)12月11日号から】
- 【MTJ(The Medical & Test Journal)12月21日号から】

===== JACLaP WIRE =====

【お知らせ-1】会員情報
会員動向(2004年12月31日現在数674名, 専門医490名)

【所属・その他変更】
倉持 茂 先生:旧 国立病院東京医療センター
 新 独立行政法人国立病院機構東京医療センター

【退会会員】
猪狩 淳 先生:順天堂大学医学部臨床病理
(12月31日退会)

===== JACLaP WIRE =====

【お知らせ-2】事務局の移動について
総会で承認された事務局の新設を行いました。
11月8日から正式に事務局の移動が常任幹事会で認められました。
これにより当会の業務の恒久性が一層保たれることになると思います。
新事務局は東京のJR御茶ノ水駅から徒歩2分の極めて交通の便がよいところです。事務局員は月曜日から金曜日まで毎日午後1時から5時まで勤務しております。日本臨床検査専門医会への問い合わせその他は、今後、新事務局までお願いいたします。

日本臨床検査専門医会事務局
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-1-19 アルベルゴ御茶ノ水505
電話・FAX:03-3293-5521
E-mail address:senmon-i@jaclp.org
です。

【住所変更・所属変更に伴う事務局への通知について】
最近、住所・所属の変更にもなっており、定期刊行物、JACLaP WIRE など電子メールの連絡が付かなくなる会員が多くなっています。
住所、所属の変更時およびE-mail addressの変更がありましたら必ず事務局までお知らせください。
所属、住所変更時は、できればホームページから会員登録票をダウンロードしてそれに記載しFAXあるいはE-mailでお願いいたします。

===== JACLaP WIRE =====

【WHO トピックス-1】フィリピンの水害で 360 万人が伝染性病の恐れ

<Press December 2004 WHO-180>

フィリピンで発生した台風の影響でマラリアや下痢などを含む伝染性病により 360 万人の命が危険にさらされている。フィリピン政府と国際連合が 640 万米ドルの援助の緊急声明を行っている。2004 年 11 月後半から 12 月上旬にかけて、フィリピンの北東部に台風と熱帯嵐が連続して 4 回襲来し、1,060 人が死亡、1,023 人が負傷、559 人が行方不明となり、周辺住民の 360 万人が影響を受けた。また、88 万人が洪水により居住地よりの避難を余儀なくされている。フィリピン保健省は巡回医療移動班を作り被害の状況、精神社会的支援、環境による健康への影響などについて調査し、緊急に薬物の投与も行っている。住民の間では、下痢、上気道炎症などが顕著で、安全な飲料水の確保と衛生設備の改善が必要とされている。今後、蚊により媒介される病気、特にマラリアの増加が懸念されている。医療機関の損害は 110 万米ドルに達している。
(獨協医科大学越谷病院臨床検査部 森 三樹雄)

===== JACLaP WIRE =====

【MTJ (The Medical & Test Journal) 12 月 1 日号から】

信州大学病院 臨床医の研究支援を行う「臨床研究支援室」の設置を決定

信州大学医学部付属病院の勝山努病院長は、臨床検査部内に臨床研究支援室を設置する方針を明らかにした。臨床研究支援室は、臨床医の研究をサポートしていくもので、専任スタッフを配置する計画だ。一方、同院臨床検査部では、「検査部の目標(理念)」を策定した。

p 5 3 自己抗体 ELISA キット、がん検診での有用性明らかに

日衛協関東甲信越支部は 11 月 25 日、2004 年度学術研究発表会を開いた。保健科学研究所第一検査部研究開発室の桑原ちふみ氏は、医学生物学研究所が研究用試薬として販売している ELISA 法による血清中 p 5 3 自己抗体検査キット (Anti-p53ELISA) のがん検診への応用の可能性について報告。同キットは、少量の検体を用いて、約 3 時間と簡便に検査ができること、同時再現性・ロット間再現性がともに良好であったことから、がんのハイリスク群を絞り込むマススクリーニングのひとつとして将来のがん検診への応用が可能であることを示した。

日本電子 高速大量処理に適した新しい生化学自動分析装置を発売

日本電子はこのほど、高速大量処理に適した新しい生化学自動分析装置 JCA-BM8000 シリーズを発売した。これまでの検体前希釈ユニットを継承し、1 μ L サンプリングを可能とした。シングルマルチ分析ブロック (反応検出系、試薬分注系) 複数台を、希釈検体搬送ライン上を移送させる独立した希釈セルから検体を分注し、分析を行うシステム。

三菱化学ヤトロン アレルギー迅速検査キットを発売

三菱化学ヤトロンはこのほど、アレルギー迅速検査キット「イムファストチェック J1」を発売した。同製品は、特別な機器も必要とせず、簡単な操作でアレルゲンの検索ができるのが特徴。全血検体、しかも少量（20 μ L）で測定でき、短時間で主にアレルギー性鼻炎などを引き起こすとされるスギ、ネコ、ダニの特異的 I g E が同時測定できる。また従来法との相関性も良好だという。

【M T J（The Medical & Test Journal）12月11日号から】

臨薬協・2003年度臨床検査薬売上げ、過去最高の4259億1600万円

日本臨床検査薬協会（臨薬協）は、2003年度の臨床検査薬売上金額の調査結果をまとめた。03年度の臨床検査薬売上額は4259億1600万円で、前年度の4084億7100万円を4.3%上回った。そのうち体外診断用医薬品（薬事法範ちゅうの医薬品）の売り上げは2939億4900万円で、前年度の2843億7900万円を3.4%上回ったほか、98年度以降、増加傾向を堅持している。

山本義教日衛協名誉会長が急逝

日本衛生検査所協会は、山本義教（よしのり）名誉会長（日衛協前会長、サンリツ会長）が11月28日、急性脊髄硬膜外血腫のため入院先の東大医科研病院で死去したことを明らかにした。79歳。

J R大阪鉄道病院 超音波検査で音声認識入力システム開発へ

J R大阪鉄道病院（田中承男院長、320床）画像診断センター生理検査部の小宮山恭弘氏（臨床検査技師）はこのほど、超音波検査に音声認識入力ソフトを利用したりアルタイムリポートシステムを開発中であることを明らかにした。小宮山氏は、映画を観ながらポップコーンを食べるように、検査の思考の妨げにならない、音声入力を目指しており、導入により集中力を低下させるなど、所見入力のために検査が妨げられないことが目標だという。

東京医科歯科大など 尿試験紙で歯周病などの唾液成分測定が可能に

東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科、昭和大歯学部歯科補綴（ほてつ）学教室、アークレイポイントオブケア事業部は、歯周病や歯肉炎などの唾液成分を尿試験紙で測定できることを突き止め、12日の日本唾液腺学会で報告することが明らかになった。

東芝 半導体回路技術を用いたDNAチップを開発

東芝はこのほど、半導体に幅広く使用されているCMOS（相補型金属酸化物半導体）集積回路技術を用い、高感度の検出能力と小型化を実現したDNAチップを開発した。同社によると、すでに開発済みの感染症や薬物の副作用判定チップに加え、がんなどの重篤な疾病の発症や進行度のモニタリングなど、新たな検査項目に対応したチップ

の開発が可能になった。

【MTJ (The Medical & Test Journal) 12月21日号から】

日本医師会 輸血検査など3項目を特定検査として容認

日本臨床衛生検査技師会関連法案として先の臨時国会に上程されていた臨衛技法一部改正案は、審議未了のため次期通常国会以降の継続審議になった。それと平行して日本医師会と日臨技は、臨衛技法改正案の中に輸血検査など3項目を特定検査として、「臨床検査技師の業務とすることが望ましい」とする努力規定にすることで合意したことが明らかになった。

施設協秋期会議 3年制養成施設に関する運営問題を検討

全国臨床検査技師教育施設協議会(三村邦裕会長、施設協)の秋期会議が12月13日、東京医科歯科大学で開かれた。三村会長は会議に先立ち、「各種委員会の検討内容については、来年春の総会までにまとめてもらう方針だ」とあいさつし、同日は法人化検討委員会や養成施設将来問題検討委員会などの中間報告が行われた。

ファルコバイオ BRCA1、BRCA2 遺伝子基礎データ収集で臨床研究開始

ファルコバイオシステムズはこのほど、慶應義塾大学病院をはじめ、首都圏の5医療機関と共同で、日本人乳がん・卵巣がん患者のBRCA1およびBRCA2遺伝子の変異を解析し、検査の臨床的有用性を確認する「多施設共同研究」に、12月から着手したことを明らかにした。同社では、この研究成果を基に、日本での予防医学的遺伝子検査の本格的な普及への道が開け、臨床検査の「新市場開拓」につながると期待している。

SRL 膵PAP(研究用)の受託サービスを開始

エスアールエル(SRL)はこのほど、血清膵炎関連タンパク(膵PAP)を研究用として受託サービスを開始した。すでに欧州では測定(フランス・DYNABIO社製、PANCREPAP ELISA)されているものの、国内ではほとんど測定されていない。膵PAPは、膵臓の侵襲に対するストレス応答機構により産生されるストレスタンパクのひとつ。

バイオメディカルE 抗t-MK抗体、がんの悪性度を示すことを確認

バイオメディカルエンジニアリングはこのほど、同社が製造特許を持つ短縮型ミッドカイン特異的モノクローナル抗体(抗t-MK抗体)が、がんの特異な抗体であることを確認した。工藤憲雄代表取締役は、「抗t-MK抗体は、がん由来の抗原検出として、近い将来、がんの有無やがんの悪性度が分かる高感度なELISA法試薬として開発することが可能である」と話す。

「日本栄養療法推進協議会」が設立披露

N S T (Nutrition Support Team : 栄養サポートチーム) の設置を有機的に発展させ、適切な「栄養療法」を全国の医療機関などに推進・普及させることを目指す「日本栄養療法推進協議会 (理事長 = 日野原重明・聖路加国際病院理事長)」の設立披露会が 12 月 12 日、東京都内で行われた。

=====

JACLaP WIRE, No.78 (2005 年 1 月 11 日発刊)

発行：日本臨床検査専門医会 [情報・出版委員会]

編集：JACLaP WIRE 編集室 編集主幹：満田年宏

TEL:045-787-2721・FAX:045-786-0392

本 WIRE の記事購読 (配信・停止) ・広告等に関するお問い合わせ先：

E-mail : uys-com@umin.ac.jp

日本臨床検査専門医会事務局 (入会・退会) に関するお問い合わせ先：

E-mail : senmon-i@jaclp.org

日本臨床検査専門医会ホームページ

<http://www.jaclap.org/>

JACLaP WIRE バックナンバー：

<http://www.jaclap.org/wire/index.html#TOP>

会員の皆様からの寄稿をお待ちしております！

メーリングリスト配信先の変更には

1. 氏名, 2. 現行登録アドレスと 3. 変更希望メールアドレスを添えて
uys-com@umin.ac.jp まで「配信先の変更希望」としてお送り下さい。
